

今月のトピック

厳寒期を草勢維持して
乗り越えましょう

12月、1月は光合成の原料となる日射がもっとも少ない時期です。光合成量と生育速度の関係を意識して、温度や草姿を管理しましょう。

厳寒期の草勢維持

■ 12月、1月の環境

積算日射量が1年の中でもっとも少ない時期です。そのため、着果負担が多くかかる中で、光合成量は少なく、草勢が弱りやすいです。一方で、平均外気温は低いため、ハウス内の温度を換気によって下げやすく、意図した温度管理を行いやすい時期になります。

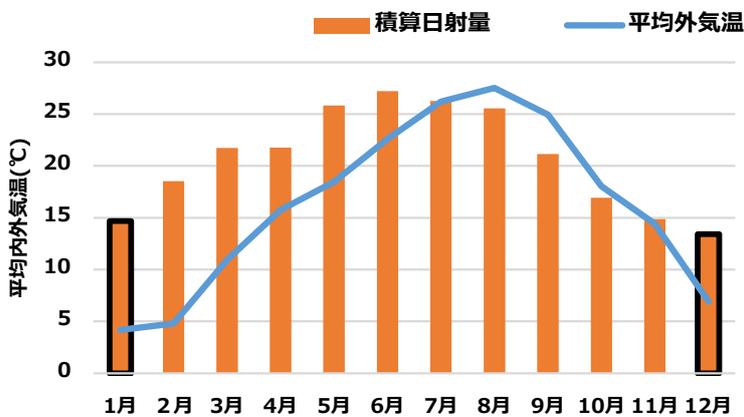
■ 草勢管理

・草勢の強弱は光合成量と展開速度のバランスで決まります。展開速度は温度の影響を受けています。

＊大玉トマト 積算温度200℃前後で1段開花（葉3枚展開、1花房開花）

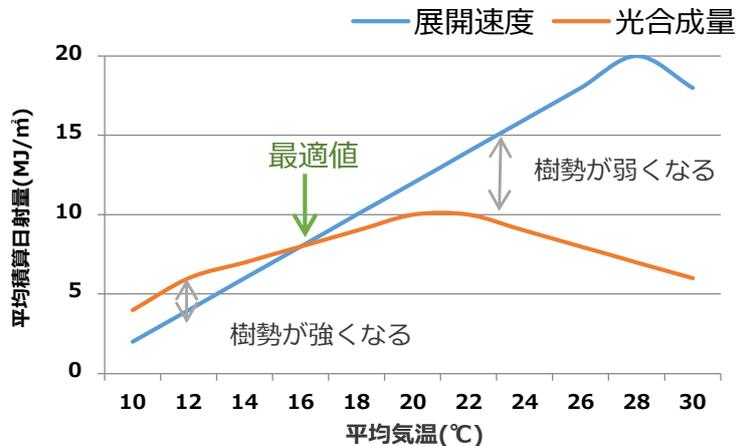
・現在の平均気温を確認し、草勢を強くしたいのか、弱くしたいのかで、平均温度を変えます。また天気が雨や曇りで、日射量が晴天時よりも少ない日は、日中の換気温度や暖房温度を下げて、平均気温を低く管理します。

年間の積算日射量と外気温の推移



* 当社研究農場のデータ (2022年：豊橋)

展開速度と光合成量のイメージ



+α 果実に光を当てましょう！

果実は開花から成熟までに積算温度で1000℃前後が必要です。草勢維持のために平均気温を下げた管理を行うと果実の成熟がゆっくりになります。長期間の着果負担は草勢低下を助長する可能性があります。果実温を上げるために葉かきを行い、果実に光が当たるような草姿を目指しましょう。

